

V. 特記事項

1. 医療法人鉄蕉会との連携

学生が看護実践能力を獲得するために、臨地実習は欠かせない重要な教育場面であり、非常に重要な役割を担っている。本学は、医療法人鉄蕉会が運営する亀田総合病院を主な臨地実習先として、総合的な実践力をはじめとする能力を培ってきている。令和元(2019)年末からの新型コロナウイルス感染症流行下においても、感染拡大により実習が出来ないという声で溢れているなか、看護教育への理解と実績から強い連携を発揮し、臨床現場での学生の実習受入れに関し、本学では平常時と変わらない実習を行うことができた。より一層の看護教育の充実を志向し、亀田総合病院看護部と大学による連絡会を組織し、看護部長、副看護部長、学長、副学長、学部長、事務局長等が教育、研究、交流、キャリア支援などについて年4回、話し合いを行っている。

また、令和5(2023)年4月から、亀田総合病院における臨床看護に関する教育研究を啓発、促進及び発展させるため、「亀田総合病院等臨床看護教育研究センター」を設置し、亀田総合病院・亀田クリニック・亀田リハビリテーション及び亀田医療大学が以下2点について協働で実施している。

- 1) 臨床看護教育部門：臨地実習指導者コース、看護管理者の看護倫理研修
- 2) 臨床看護研究部門：意味をみつめる事例研究、大学教員と臨床看護師の共同研究の助成

2. 国際看護学海外研修への取り組み

本学のDPにあるように国際社会の一員であるという自覚と意欲をもって行動できる能力を育成するために、国際理解と国際貢献(1年前期)、国際看護学Ⅰ(3年前期)、国際看護学Ⅱ(4年前期)を開講している。国際看護学Ⅱでは、訪問する国のヘルスケア施設を見学し、世界の人々の健康と看護職をグローバルかつ文化的視点から考察する目的で、海外研修を行っている。本学は令和5(2023)年8月31日にドイツのフリートナー応用科学大学(Fliedner Fachhochschule Düsseldorf University of Applied Sciences)と日独両国の親善及び教育・研究交流を目的に学術交流協定を締結した。同大学は看護の創始者フローレンス・ナイチンゲール(Florence Nightingale)が看護を学んだカイザースヴェルトデアコニー(KaiserswertherDiakonie)にある。

令和6(2024)年は以下の国を訪問し研修を実施した。

- 1) シンガポール(9/3~9/6)：学生数13人
研修施設：①Khoo Teck Puat Hospital、②National University Hospital
- 2) ドイツ(9/22~9/27)：学生数13人
研修施設：①Fliedner Fachhochschule、②Florence Nightingale Krankenhaus
③Kulturstiftung und Pflegemuseum
- 3) 中国(9/3~9/8)：学生4人
研修施設：山西医科大学、山西医科大学第1病院

以上海外研修の学生の学びや実態、課題等は、令和7(2025)年2月にFD/SD研修で報告を行った。なお、学生の諸事情で海外研究に参加できない学生には、グローバルかつ文化的な視点から、課題を提示しグループディスカッション等で学びの共有を図った。

今後、参加できない学生への対応については格差のない教育方法の検討が必要である。